

## 総合心療センター 作業療法室

室長 山内 学

---

### 当部門について

今年の作業療法室は、コロナ禍における変化と調整を求められていました。これまで、体験したことのない難しさを感じました。スタッフ全体のエネルギーの持っていく方向性や対象に提供できるものの選択と集中することが環境面から考えていくことになってきました。空間を分けることや三密を避けて展開するためにはどうするかなどのテーマが上がってきました。これまでは、三密化で行うことが出来ていたものを壊していくことの難しさや変化させて効果を出すことが出来るかという不安は大きいものでした。『やりたいことからやらないといけないこと』への発想の転換の上で作業療法プログラムを運営することには、スタッフの姿勢や対象者の協力が大きかったです。スクラプト&ビルドを何度か経験してきたことや対象者への説明や動機づけを大事したことも効果を出しやすいものとなりました。もちろん、多職種のサポートもあることで調整や変化を行いながら作業療法を運営できています。

作業療法の実践においては、スタッフの動揺が影響を及ぼしていることもあり参加者減につながっていました。入院患者へのコロナ感染対策にて多くの制限がかかることもあり、これまでによう作業療法への参加が出来にくい状況も重なっていました。スタッフ間で試行錯誤しながら、対応することで知識を経験がついていくことで安全と安心を提供できるようになってきました。そのころより、参加者増になってきています。外来作業療法の提供は不安な要素が限定されており、早期に参加者が増加してきています。外来作業療法は居場所的要素が強いプログラム運営であるために間口が広く対応できています。導入しやすい、反面次のステップに進むことやデイケアへ移行していくことの難しさが出てきています。いくつかの治療的なグループの導入にまで至っていないことも大きな要因です。

間接業務過多についても、かなり増えている現状です。少人数の部署のため、人員が少ないため幾つかの業務がタイムリー出来ていないです。調整をしながらやっていくことや、カバーできることでの連携は強化していくように努めています。

今後も、コロナ感染対策には十分気をつけながら運営することや治療グループの導入をしていく予定です。精神科における急性治療の中での対象者の回復度上げるために、アフターコロナも視野に入れてスキルアップは継続していきます。